

フ ロ ン ト ラ イ ン FRONT LINE

— 最前線 —

各現場の最前線で活躍中の社員を紹介する当コーナー。今回は、米国のグループ会社に赴任し、シール・ラベル用粘着製品の拡販に努める事業開発マネジャーをご紹介します。



リンテック・USA
ホールディング社

あらき かつひろ
荒木 勝寛

2005年に入社。印刷・情報材事業部門でラベル印刷機の拡販に従事した後、技術・開発室にてシール・ラベル用粘着製品の技術営業などを担当。2018年6月より同社に外向。

Q 現在の仕事について教えてください。

主にリンテック製品の北米顧客への拡販を担当しており、日々の営業活動に加えて材料の受発注から在庫管理、技術支援、現地スタッフの教育、展示会での販促活動まで業務は多岐にわたります。さまざまな高付加価値製品を提案していますが、特に油面用ラベル素材の反響が大きいですね。そのほか、マックタック製品の海外展開にも携わっています。



油面用ラベル素材

通常は貼ることが難しい油が付着した面に対しても、特殊粘着剤層が油を吸い取り、しっかりと貼付できます。自動車部品などの工業用途で使用され、油をふき取る必要がないため、作業効率の向上に大きく貢献します。

Q 日本と北米のラベル市場ではどのような違いがありますか。

日本では品質や機能などが重視される傾向にありますが、加えて北米では必要なものをすぐに納品すること、つまりスピードや効率が求められます。また、コロナ禍で従来のような訪問営業ができなくなった時に、メール広告やウェブ会議などを積極的に活用してお客様との接点を維持するなど、環境変化への社内の対応の速さにも驚きました。

Q 今後の目標や新たに取り組みたいことなどを教えてください。



昨年の旧デュラマーク社の買収、そして今年のスピネカー社の設立によってマックタックグループの生産能力や販売網などが大幅に強化されたことを受け、北米でのリンテック製品の拡販、さらにはマックタック製品のグローバル展開を一層推進していきたいと考えています。日米双方の良さを学び、それを生かすことで、マックタックグループのメンバーと共にリンテックの成長に貢献していきます。



2022年度 新聞広告シリーズ リンテック みっけ！

あなたの身近なところに、リンテックテクノロジー。

持続可能な社会の実現に向けて、リンテックはさまざまな製品や技術を生み出しています。皆様の“暮らしの中で活躍するリンテック”を好奇心旺盛な黒猫と一緒に見つける広告シリーズです。

【掲載紙】

日本経済新聞、読賣新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、北海道新聞、中日新聞、中国新聞、西日本新聞、上毛新聞、神戸新聞、愛媛新聞、日刊工業新聞、化学工業日報

リンテック
みっけ！

車の窓に貼って日射熱を遮り
冷房効率を高める省エネフィルム
リンテック株式会社

7月 掲載広告

リンテックでは自動車の窓ガラスに貼るだけで日射熱を遮り、車内の温度上昇を抑制する窓用フィルムを幅広く展開しています。目隠し効果のある濃色タイプや車内外からの視認性と採光性を保つ高透明タイプなどを取りそろえ、夏場の省エネルギーに貢献します。



リンテック
みっけ！

回収された瓶の再使用を促進する
洗浄工程で割れやすいラベル素材
リンテック株式会社

8月 掲載広告

回収して繰り返し使用される生酒などの飲料瓶にもリンテックのラベル素材が使われています。使用時は水にぬれても剥がれず、回収した瓶を洗浄する際には簡単に溶けたり、剥がれたりする設計となっています。剥がす手間を軽減し、瓶の再使用を促進するラベル素材です。



リンテック
みっけ！

窓ガラスが割れても破片の飛散を
抑制する防弾対策フィルム
リンテック株式会社

9月 掲載広告

建物でもリンテックの窓用フィルムが活躍しています。フィルムを貼ることで地震や台風などでガラスが割れても、破片の飛散を抑制する効果を発揮。ガラス飛散防止対策性能の国家規格制定にも携わった高い技術力と豊富な実績が製品の信頼性につながっています。

製品の詳細は右記の二次元コードから
ウェブサイトにて御覧いただけます。

DREAM FACTORY
www.lintec.co.jp/dream/ad



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結会計期間	前連結 会計年度
流動資産	180,475	182,224
固定資産	123,389	120,640
① 資産合計	303,865	302,865
流動負債	69,451	72,382
固定負債	20,249	20,724
② 負債合計	89,701	93,107
③ 純資産合計	214,164	209,758
負債純資産合計	303,865	302,865

四半期連結損益計算書及び 四半期連結包括利益計算書(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結累計期間	前第1四半期 連結累計期間
④ 売上高	69,497	62,377
売上総利益	17,062	17,055
販売費及び 一般管理費	11,668	10,649
⑤ 営業利益	5,393	6,405
経常利益	6,931	6,935
税金等調整前 四半期純利益	6,931	7,232
⑥ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,159	5,478
四半期包括利益	10,700	10,146

■ ポイント！

① 資産合計

自己株式の取得などにより「現金及び預金」が減少しましたが、「棚卸資産」や成長分野への積極投資による「有形固定資産」の増加などにより、総資産は10億円増加しました。

② 負債合計

調達コストの上昇などにより「支払手形及び買掛金」が増加しましたが「未払法人税等」などが減少したことにより、負債は34億6百万円減少しました。

③ 純資産合計

自己株式の取得などによる減少がありましたが、円安の進行により「為替換算調整勘定」などが増加したことにより、純資産は44億6百万円増加しました。

④ 売上高

米国での企業・事業買収の効果などで印刷・情報材事業部門が大幅に増加したことなどにより、売上高は71億19百万円増加しました。

⑤ 営業利益

円安による増益効果はありましたが、原燃料価格や物流コストの上昇などの影響を大きく受け、営業利益は10億12百万円減少しました。

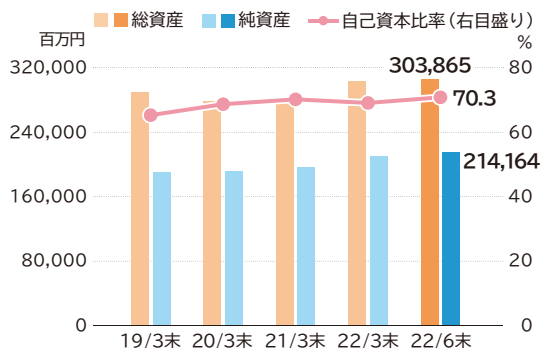
⑥ 親会社株主に帰属する 四半期純利益

円安の進行により為替差益が大幅に増加しましたが、営業利益の減少や前年同期に買収に伴う特別利益を計上したことなどにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億18百万円減少しました。

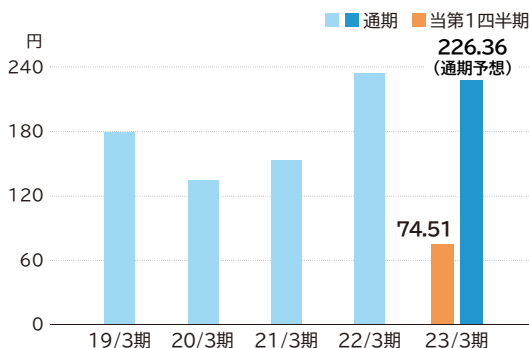
四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結累計期間	前第1四半期 連結累計期間
営業活動による キャッシュ・フロー	460	7,684
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,830	△8,104
財務活動による キャッシュ・フロー	△7,218	△3,587
現金及び現金同等物の 四半期末残高	42,453	55,257

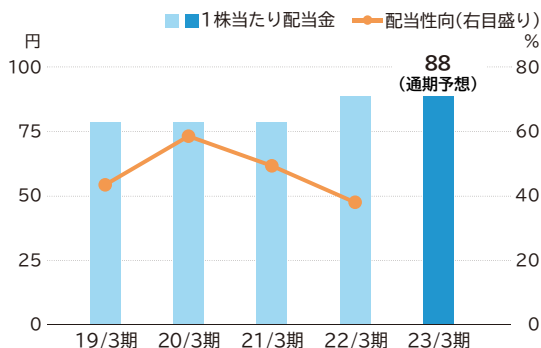
総資産・純資産・自己資本比率



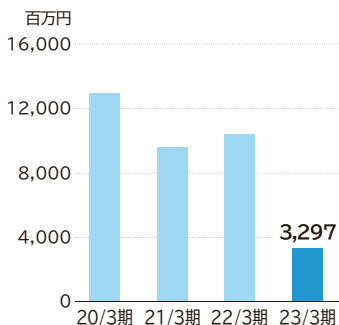
1株当たり四半期(当期)純利益



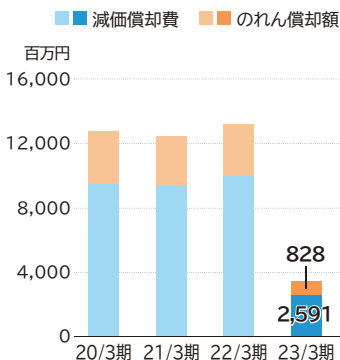
1株当たり配当金・配当性向



設備投資額



減価償却費・のれん償却額



研究開発費

